

たしかな未来を創るために

雄武町長 高橋 健仁

新年 明けましておめでとございませう。町民の皆さまにおかれましては、健やかに新春を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。また、日頃から町政に対しご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、元日に発生した能登半島地震は未曾有の大災害となりました。改めて、犠牲となられたすべての方々に深い哀悼の意を表しますとともに、今もなお被災に遭われた皆さまにお見舞いを申し上げ、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

また、日本列島各地では地球温暖化が起因となる異常気象による猛暑や大雨など、自然災害による被害が多く発生しました。平均気温が異常に上昇することによって、干ばつによる農作物・海水温上昇による水産資源への影響など、私たちの生活に危機をおよぼすと言われております。

雄武町では、オホーツク海の豊かな漁場や広大な草地と森林資源を後世に引き継ぐために、脱炭素社会に向けた取り組みを町民や事業者の皆さまとともに、より一層推進する必要があると判断し、12月議会定例会において「雄武町ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

そのほか、国内外においては新紙幣の発行や政治資金問題、石破内閣の発足など、話題が尽きない一年でした。特に、スポーツではパリ五輪における北口榛花選手の金メダルなど道内出身選手の活躍が目立ちました。本町においても卓球や陸上競技などで、児童生徒が全道や全国大会に出場するなどの明るいニュースがありました。

さて、昨年の雄武町の産業の状況ですが、酪農・畜産業においては生乳の生産抑制が終了し、乳価の引き上げが行われたことにより、農業経営に明るい兆しが見えていた反面、肥料・飼料・燃油など生産資材の高騰や、一時上昇傾向にあった牛の個体販売価格が下落傾向にあり、先行きが不透明な状況が続いています。

また6月には食料・農業・農村基本法が四半世紀ぶりに改正され、農業者や農協、地域住民が将来にわたり希望を持てる食料・農業・農村政策の確立が不可欠です。そのため、生産現場の声に耳を傾け、地域を挙げて力を入れていく必要があります。

漁業では、主要魚種の一つであるホタテ貝が5年連続で2万トンを超える水揚げを記録し、好調のまま切り上げを迎えました。毛力ニは計画量の62トンを超調に水揚げしたものの、資源量は不安視されています。そのため、オホーツク管内栽培漁業推進協議会毛力ニ部会による種苗生産の研究が実を結び、安定した生産に繋がることに期待が寄せられています。また、サケは計画量の6割の水揚げに留まりましたが、漁業全体での総漁獲高については、計画金額を大きく上回りました。

水産加工業では、中国が続けてきた日本水産物の禁輸措置について、輸入を段階的に進めることで合意されました。これにより、国内外の需給バランスが回復し、雄武産ブランドが守られることを期待しています。また、経営面においては燃油価格による生産コストの高騰や、今後始まる育成就労制度に向けた環境整備などの課題がある

りますが、経営の安定化が図られることを願っています。

私は町長に就任して以来、2度目の新春を迎えることができました。この間、多くの課題に直面しながらも地域の魅力を高めるために、8年ぶりの町政懇談会の開催をはじめ、各企業、産業団体、自治会、関係団体の皆さまとの懇談を通じて多くの声を伺いました。この声を町の政策に反映させることを念頭に優先順位を整理し、懸案事項については国や北海道へしっかりと訴え要望するとともに、持続可能社会の実現に向けて、地域経済の活性化や脱炭素・環境問題、防災対策、公共交通、子育て支援、高齢者福祉の充実など、地域の特性を踏まえた取り組みを進め、私が掲げる「たしかな未来を創る」ためのまちづくりを進めてまいります。

ふるさと雄武町がさらなる発展を遂げるためには、町民の皆さまとの参画と協働が不可欠です。今後も町民の皆さまからのご意見やご要望を大切に、一緒に考え、一緒に行動することで、より良い未来を築いていきたいと思います。

私自身も町長としての責任を果たすべく、一層努力してまいりますので、本年も宜しくお願い申し上げます。

結びに、町民の皆さまのご健康とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

令和7年の新しい年が明けました。雄武町の皆さまにおかれましては、穏やかに新年をお迎えの事と心よりお慶び申し上げます。旧年中は、町議会に対して深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年の出来事では、元日の夕方に発生した最大震度7の能登半島地震により、石川県と富山県周辺が甚大な被害を受けました。さらに2口にも羽田空港の滑走路で、日本航空の旅客機と海上保安庁の航空機が衝突、炎上する事故が発生しました。この事故で海保機の乗員5人の命が失われた一方、日航機の乗員・乗客379人は全員脱出、うち14人が負傷しましたが、搭乗者全員の無事脱出を導いた客室乗務員に対して国内外から多くの賞賛の声が寄せられました。

改めて能登半島の地震によって犠牲になられた皆さまと被災された皆さま、羽田空港でお亡くなりになった5人に対しまして、心からお悔やみを申し上げますとともに、お見舞い申し上げます。日本中が驚きと悲しみに包まれた新年早々の震災と事故は、日本の国が今年どうなるか心配な新年を迎えて始まった一年でした。

一方、7月にパリオリンピック・パラリンピックが開催される。柔道、レスリング、体操、卓球、テニスやそのほか多くの競技において、連日報道される日本選手の活躍する姿から大変勇気と感動を受けました。

ロシアのウクライナ侵攻は2月24日で丸3年を迎えます。パレスチナ・イスラエル戦争も一年を過ぎてなお、戦闘状態が続いています。またシリアでは13年間続いた内

戦が昨年12月に反政府勢力の勝利で終わりました。地球上では、規模の大小に関わらず必ずどこかで悲惨な戦闘が発生して続いているのが現実です。戦後、これまで頑なに平和を守ってきた日本が目指すべき未来が乖離しているように思います。

さて、昨年の町内を振り返ると、漁業の漁獲金額は前年比約10億円の減少の約64億円です。昨年、中国が日本水産物禁輸の発表以来、主力の冷凍ホタテが中国へ輸出不可能になりましたが、中国以外への輸出が増加し価格も安定したため水揚げ金額は前年比若干減少の40億円に迫る金額になりました。毛力ニ漁も僅かに増加、タコ漁も単価・水揚げ高も増加しました。ホタテ稚貝の全道的な不足の問題が気になるのですが、関係者の方々に研究をして頂き、解決策を見出せるようご期待申し上げます。

農業では、生乳生産額が若干増の約32億円（補給金含む）、生産量は約4.0%増の2億6千トンでした。穀物価格、石油価格などの高騰で、子牛価格の下落や配合飼料価格の高止まりなど、昨年に続き組合員の皆さまは厳しい経営の中で努力を続けている所です。

「国営緊急農地再編事業雄武丘陵地区」農地整備事業は今年で8年目です。将来この事業完成により輸入穀物中心の飼料よりも自給飼料を主とした営農による雄武町の農業の飛躍を期待します。

また、安全操業の根幹である漁港の整備も、元稲府・雄武・沢木各漁港がそれぞれ予算化されています。次世代には安全で優れた漁港や大規模で使いやすい農地を次世代に残す

雄武町の未来に思いを込めて

雄武町議会議長 橋詰 啓史

啓史

事が、今を生きる私たちの大きな責務です。漁業、水産加工業、農業、林業、ともに我が町にとって雇用と経済を支える重要な基幹産業です。国・北海道の補助制度活用と合わせて、議会としても常に状況把握に努めて可能な助成制度を町とともに議論して参ります。

昨年は、岸田総理が辞職して石破総理が誕生しました。石破総理は、その後衆議院を解散し、10月27日に衆議院議員選挙が施行されました。結果、与党の議員が自民党と公明党の議席が減少し、連立与党で過半数を割り込んだため、国民民主党の協力を得て過半数を超えるという不安定な政権運営が行った状態になりました。

雄武町議会としては、未来の雄武町を担う若い世代が胸を張って自慢できる雄武町を目指して、町の経済の活性化、地域の産業を支えるための施策とともに、子育て支援や教育環境の充実、高齢者福祉の向上など皆さまが安心して暮らせる環境づくりに力を入れてまいります。昨年は4月と11月に町民の皆さまと「意見交換会」を開催し、さまざまな意見を交わす事が出来ました。これからも、町民の皆さまの声に真摯に耳を傾け、透明性のある議会運営を心がけて新たな気持ちで、高橋町長と議論を重ねながらより良い町づくりに取り組む所存です。

町の発展には皆さまのご協力が不可欠です。一人ひとりが地域の一員として、お互いに支え合い、協力し合うことで、より良い未来を築いていくことができます。

雄武町長と雄武町 議会議長が語る

己年の誓い

これからも町議会として、皆さまとともに歩み、町の発展を目指して参ります。令和7年も、町民の皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。雄武町の発展に向けて、一丸となって取り組んでまいります。